

資質・能力の育成を目指した授業づくりに向けて

～高等学校国語科における実践～

学籍番号 17AX011
氏名 本澤 勝也

要旨

次期学習指導要領の告示を目前にした現在、高等学校は大きな変革の中にある。今後は「育成すべき資質・能力」をキーワードに、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善だけではなく、観点別学習評価の一層の充実も求められるだろう。その中で「言葉」そのものを学習対象とする国語科の果たす役割は大きいと考えられる。にも関わらず、依然講義調の伝達型授業であるとの指摘もされている。そこで、本研究では主に国語科を対象に、学習指導要領の指導事項を基に「目標」を明確にし、評価規準を作成した上で、授業を行い、「目標」と「指導」と「評価」の一体化を目指した。その取組自体には成果らしい成果は見られなかったものの、次年度以降の授業改善に向けた具体的な課題を抽出することができた。その課題とは、①教師のネガティブな生徒観が学習意欲の喚起を目指した説明中心の授業スタイルを選択させていること、②学習指導要領や中央教育審議会等の答申を読む機会が少ないため、「育成すべき資質・能力」や「指導と評価の一体化」といった、授業改善に関する重要な概念をあまり理解していないこと、③定期試験のあり方や学習者の見取りなど、「評価」に対する意識が希薄であること、④相互に授業を見たり、ワークシート等を共有したりすることに抵抗感が強いこと、の4点に集約できる。